

式 辞

近年になく厳しい寒波が猛威をふるった冬も峠を越え、広島城の木立にさえずる小鳥の声にも春の訪れを感じさせる今日の佳き日、広島市教育委員会委員 渡部朋子様、PTA 会長 河野智之様をはじめ、本校に縁のある多くの方々のご臨席を賜るとともに、多数、保護者ご家族の皆様のご列席のもと、広島市立基町高等学校第六十三回卒業式を盛大に挙行できますことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

只今、三四三名の生徒の皆さんに卒業証書を授与いたしました。皆さんは、入学以来、校訓「自主自律」のもと、本校教育課程を無事修了し、今日を迎えられました。教職員を代表して、皆さんの卒業を心よりお祝い申し上げます。

この間、皆さんは、ひたむきに学術や芸術の習得と探究に励み、知性や技能を大きく伸ばしてきました。皆さんは、あたかも乾いた砂が、撒かれた水を瞬く間に吸い込むように、旺盛な向上心や知的好奇心を基に、知識や技能を次々と吸収していく素晴らしい生徒でした。また、それらを部活動や学校行事などにおいて、応用し活用する中で、思考力や判断力、表現力を身に付け、数多くの成果を収めました。学校生活の様々な場面を通じて、心身を鍛えるとともに、一生の財産となる仲間との友情を育んできました。皆さんの、学業のみならず部活動や学校行事にも全力で取り組む姿は、私たち教職員にとって、誇りであり、エネルギーの源でした。私たちは、皆さんのたゆまぬ努力に敬意を表するとともに、この基町高校において皆さんと出会い、ともに学びを究めることができたことに大きな喜びを感じ、心から感謝する次第です。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。今日まで、育ててこられたご苦労を思い起こされ、感慨も一入のことと推察いたします。卒業生一人ひとりも、保護者の皆様の深い愛情と支援があつてこそ、この日を迎えられたと、感謝の気持ちでいっぱいであらうと思ひます。入学以来、本校教育に深いご理解と並々ならぬご協力を賜り、誠にありがとうございました。お子様は卒業していかれますが、今後とも末長くご縁をいただきますようお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんがこれから大人となつて加わつていく社会について、どのようなイメージを持っているでしょうか。昨年3月の東日本大震災とそれに続く原発事故をはじめ、災害や環境、エネルギーの問題、長引く景気の低迷や我が国産業の国際競争力低下など、国内外に問題課題は山積しており、将来に明るい希望や展望を見出せないでいる若者も少なくありません。しかし、未来は決まっているものでもなければ、与えられるものでもありません。自ら作り出すものです。このような時代だからこそ、知恵と努力を結集して、未来を変革して行かねばなりません。日本の将来にとって、皆さんのような有能な若者は、かけがえのない財産です。今はまだ、自分が社会に対してどれほどの影響力を持てるのか、実感できる人は少ないかもしれませう。しかし、皆さんは間違いなく、この国の将来を背負い、導いていく人材であり、また、その責任を負っている人たちです。私たち教職員は、皆さんがそれぞれの果たすべき社会的な役割を見つけ出し、その使命に誇りをもって取り組んでいく大きな人物に成長することを目指して、教育してきました。そして、これからも応援していきます。

そこで、皆さんにぜひ実践してほしいことがあります。それは、「高い志を立て、それを公にする」ことです。他人に公開できる志は、本物の志です。志の公開には二つの目的があります。そのひとつは、公開することによって、常にその実現を意識し、自らを鼓舞するという目的です。志が高ければ高いほど、その達成過程にはいくつもの障壁があります。

自分の心のうちにのみ秘めた志や夢では、そういった困難に遭遇したとき、自分に対する甘えが出て、往々にしてあきらめてしまいます。公開・公言することで、実現に向けて後には引けない状況に自分を追い込む、すなわち、背水の陣をひくのです。

二つ目は、周囲の人々に、様々な支援や協力を要請するためです。ただし、人々が積極的に助けてくれるのは、その志が利己的な目的ではなく、公共に利益をもたらすものでなくてはなりません。社会や地域に貢献するために、真摯に努力を重ねている人には、必ず仲間ができ、多くの援助が集まります。一人では達成できる目標などほとんどありません。大勢の協力者を獲得して、実現を目指してください。

そこで、この場を借りて、私も志を公開しようと思います。それは、皆さんを含めた本校卒業生の中から、ノーベル賞、あるいはそれに匹敵する世界的な評価を得る人物を排出するという夢です。ノーベル賞は、簡単に取れる賞ではありません。しかし、天才的な才能を持つ人のみを受賞するものでもありません。ワクチンの研究で多くの人々の命を救う業績を上げたパスツールは、自身の研究過程を振り返り、次のような言葉を残しています。

「偶然は、準備のないものには微笑まない。」偶然にできたように見える新発見であっても、あきらめることなく努力を継続し、準備をしてきた人のみが、その偶然を活かすことができるという意味です。他人の成功を、「あの人は運がいい」とか、「非凡な才能があるから」と評して、自分にはできないと初めからあきらめ挑戦しない人がたくさんいます。そういう人は、幸運の女神が、何度も自分の前を通り過ぎているのに、志を立てて挑戦するという準備がないため、その姿さえ見えず、幸運を掴むことができないのです。

かつての高度経済成長期には、「マニュアル通りにまじめに働く人」が、大勢いて社会が成り立ちました。しかし、現代はどの職場でも、自ら問題を発見し、状況変化に即応し、問題解決に向け、主体的に行動できる人を必要としています。さらには、グローバルな視点と知的創造力によって、人類の持続可能な発展に繋がる新発見や新技術、新制度などの新しい価値を生み出す人材を求めています。皆さんには、まだ自分自身でも気付いていない能力や適性があります。自分の可能性を過小評価したり、固定的に捉えたりするのではなく、本校で実践してきたように、これからも様々な分野の学問やスポーツ・芸術文化に全力で挑戦してください。そうすることで新たな長所や能力を発見することができます。また、それは幅広い見識や教養を身につけることにも繋がります。極度に専門性が高まっている現代の学問研究や職業分野においては、自己の狭い専門領域だけに特化して努力しても、独創的な企画や研究成果は生まれません。国際的な感覚を磨き、異文化や異分野から学ぶとともに、多種多様な専門家と繋がり、互いを刺激しあい学びあって、ともに新しい価値の創造を目指しましょう。

本校は、二万五千人近くの卒業生を輩出しており、本校の前身である旧制広島市立中学校出身者を含め、多くの同窓生が各界で活躍されています。今日からは皆さんも同窓生の一員です。皆さんは、本校の象徴であるアオギリの木に宿るといふ鳳凰の若鳥として、今日まさに本校を巣立っていきます。基町高校同窓生としての誇りを胸に、皆さんに続く後輩の良き目標となるよう、高く大きく飛翔されることを切に願っています。

最後に、本日ご臨席を賜り、卒業生の前途を祝福して下さいました皆様、また、ご列席いただきました保護者ご家族の皆様、に、再度、篤くお礼申し上げ、式辞といたします。

平成二十四年三月一日

広島市立基町高等学校
校長 荒木 猛